

道標



府道茨木能勢線を下つてくると「西田橋」の北側にある、高さ約2mの大きな道標が見えてきます。正面に「西國二十三番勝尾寺 是より廿二丁」、左面には「すぐ そをぢ 名古屋市西區塩町 伊藤萬蔵」、そして右面に「大正九年三月建立」と刻まれています。

勝尾寺までの距離(約2・4km)と総持寺への方が刻まれているこ

巡礼道 (勝尾寺・総持寺)

②

古道を訪ねて ③〇



とから、巡礼のために建てられたことが分かります。寄進者である名古屋市在住の伊藤萬蔵氏は、四国八十八カ所霊場などの寺社、中山道を始めとする古道など、全国各地に数多くの灯籠や線香立て、道標などを寄進していることで知られている人物です。

巡礼道は、西田橋の東を通り過ぎるとすぐに府道と分離します。阪急バスの「奥」停留所付近で左に分かれる道が巡礼道です。歴史が感じられる旧家の間の道を約100m進むと、再び府道と合流しますが、すぐに分かれて、昔の面影を残す旧集落の中を進んでいくと、右側に「天照大神」を祀った「楠木神社」があります。

創建の年代や由緒は不詳ですが、境内には天保5(1834)年の紀



▲楠木神社

年銘のある石灯籠や、樹齢200年以上の樟の大樹があります。

楠木神社を過ぎると、民家は途切れ途切れになり、巡礼道はしばらくは水田の間を進んでいきます。江戸時代の粟生地域は、酒造米の生産が盛んで、全国的に有数の酒造地であった池田や伊丹、西宮などに出荷されましたので、『粟生米』の名は広く知られていました。

